

## 島原城下絵図翻刻稿（8） 「本朝城絵図」

西田，博

<https://hdl.handle.net/2324/4486298>

---

出版情報：pp.1-21, 2021-01-07  
バージョン：  
権利関係：



島原城下絵図翻刻稿⑧

「本朝城絵図」

目次

1. 基本データ .....	2
2. 「本朝城絵図」のうち「肥前島原」翻刻 .....	3
3. 語註 .....	8
4. 解説 .....	11
I. 城絵図集	
II. 城絵図集にみる島原城下絵図	
(1) 城絵図集が載録する島原城下絵図	
(2) 特徴的差異と情動的過誤	
(3) 混態	
(4) 想定される写本の系譜	
III. 「本朝城絵図」のうち「肥前島原」の成立過程	
IV. 「本朝城絵図」のうち「肥前島原」に図示される清雲寺と禅林寺	
V. 「本朝城絵図」の作成・伝世	
5. 参考文献 .....	20
6. あとがき .....	21

2021年1月7日

西田 博

## 1. 基本データ ※東京大学史料編纂所（所蔵機関）ホーム・ページによる

---

《書目データ》 【書目ID】 00011720  
【史料種別】 貴重書（原本・古写本類）  
【請求記号】 S 貴 23-1  
【書名】 本朝城絵図  
【著者名】  
【出版事項】 写本  
【形態】 1冊  
【大きさ】 40.0×30.8cm  
《冊データ》 【形態】 80丁  
※ただしホーム・ページの画像データを見る限り、墨付・白紙あわせて79丁（表紙・裏表紙除く）。

---

《ラベル他》 【ラベル1】 東京帝国大学附属図書館 No. 118882（表紙右上）  
【ラベル2】 S 貴 23/ /1（表紙右下）  
【スタンプ】 東京帝国大学附属図書館／118882／明治廿九年六月十一日（最終丁裏）

---

《撮影表題ターゲット》【探訪コード】 BD2017-007400  
【史料名】 本朝城絵図  
【所蔵者】 東京大学史料編纂所  
【撮影】 2017年8月29日

---

《画像URL》 [https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/image/idata/000/\\_000ki\\_23/1/00000075.jpg](https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/image/idata/000/_000ki_23/1/00000075.jpg)

---

《参考》 請求番号の近似：S 貴 23-2 「海東諸国記」

---

## 2. 「本朝城絵図」のうち「肥前島原」翻刻

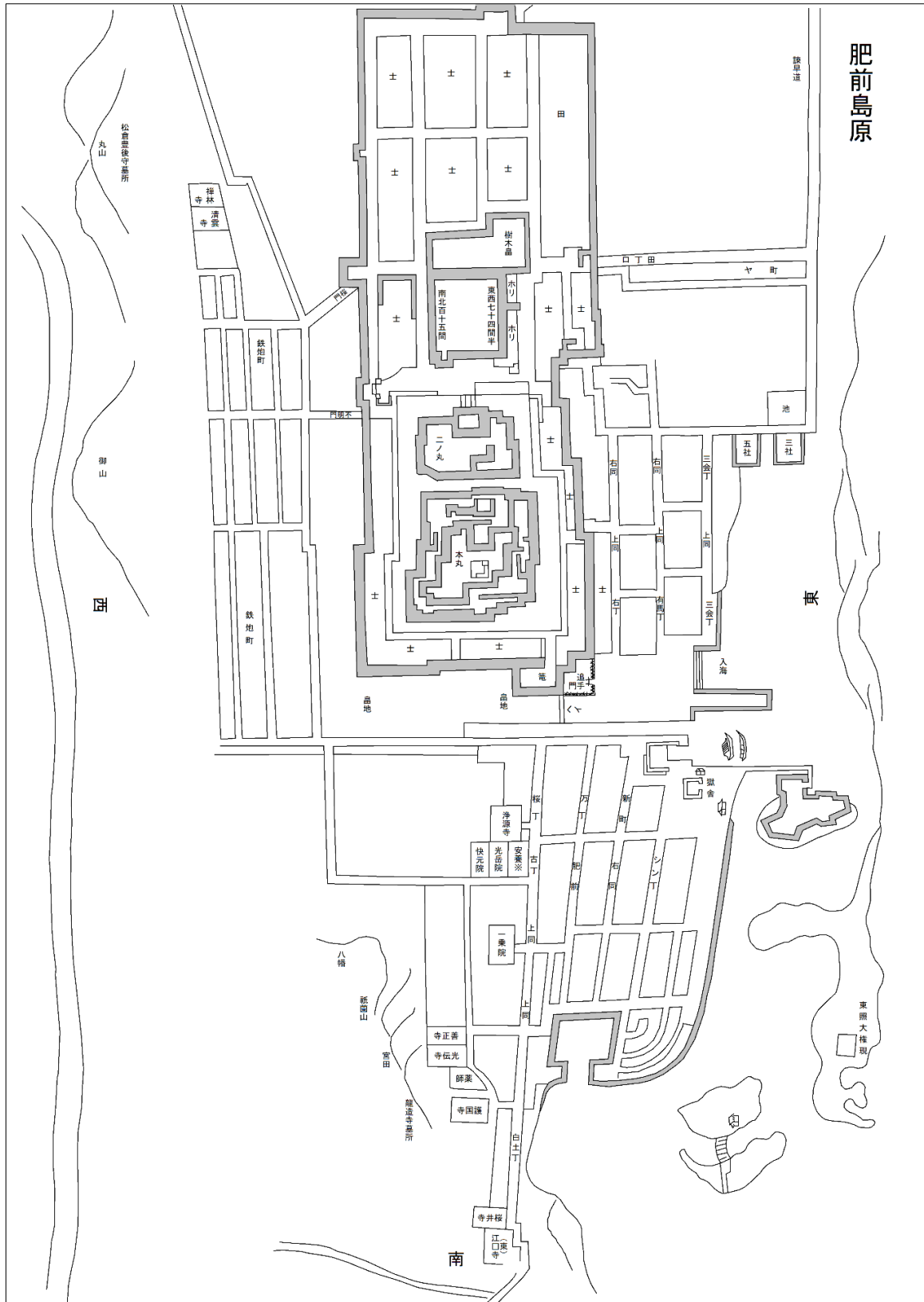


図1 「本朝城絵図」のうち「肥前島原」

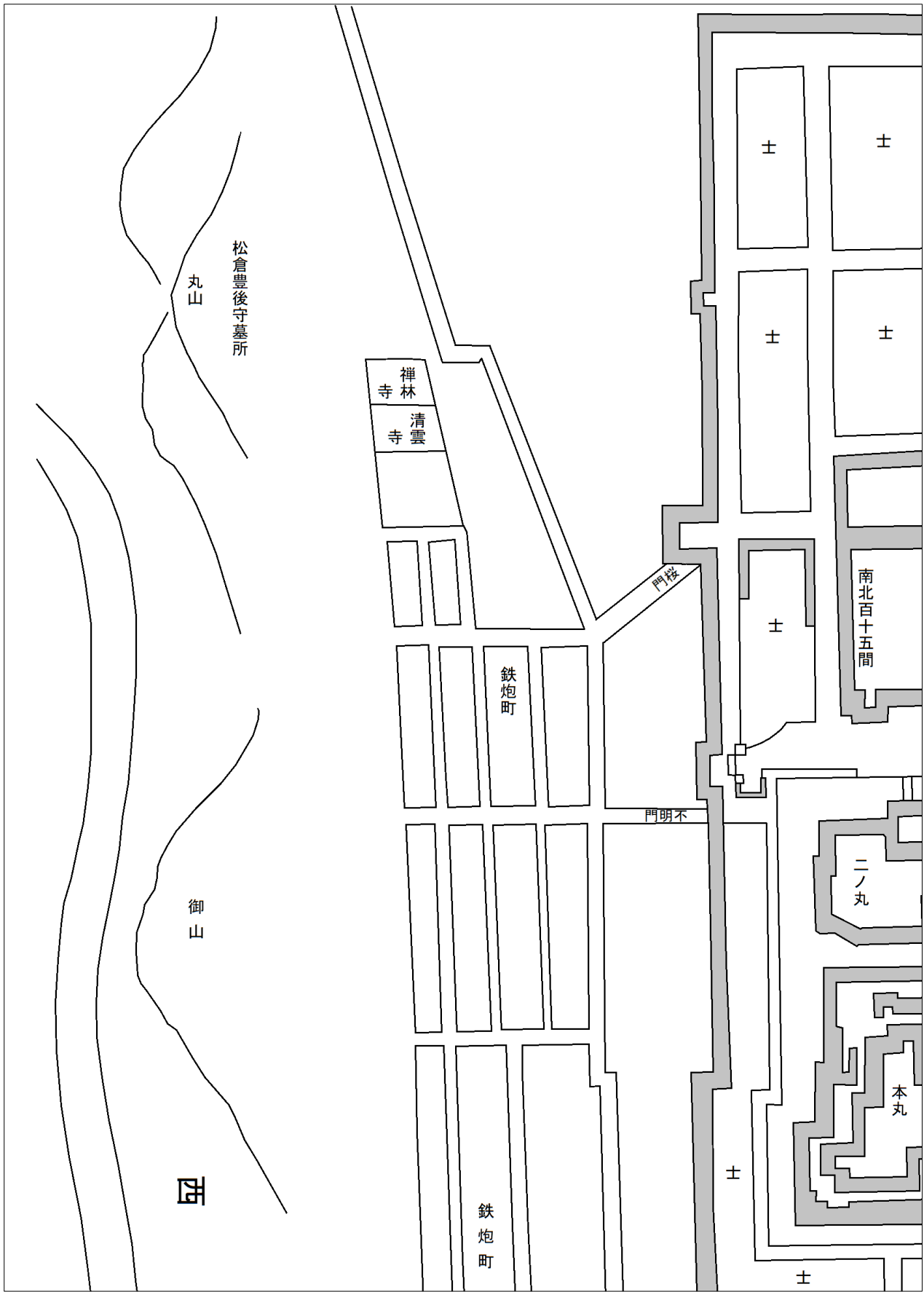


図2 「本朝城絵図」のうち「肥前島原」(北西部分)

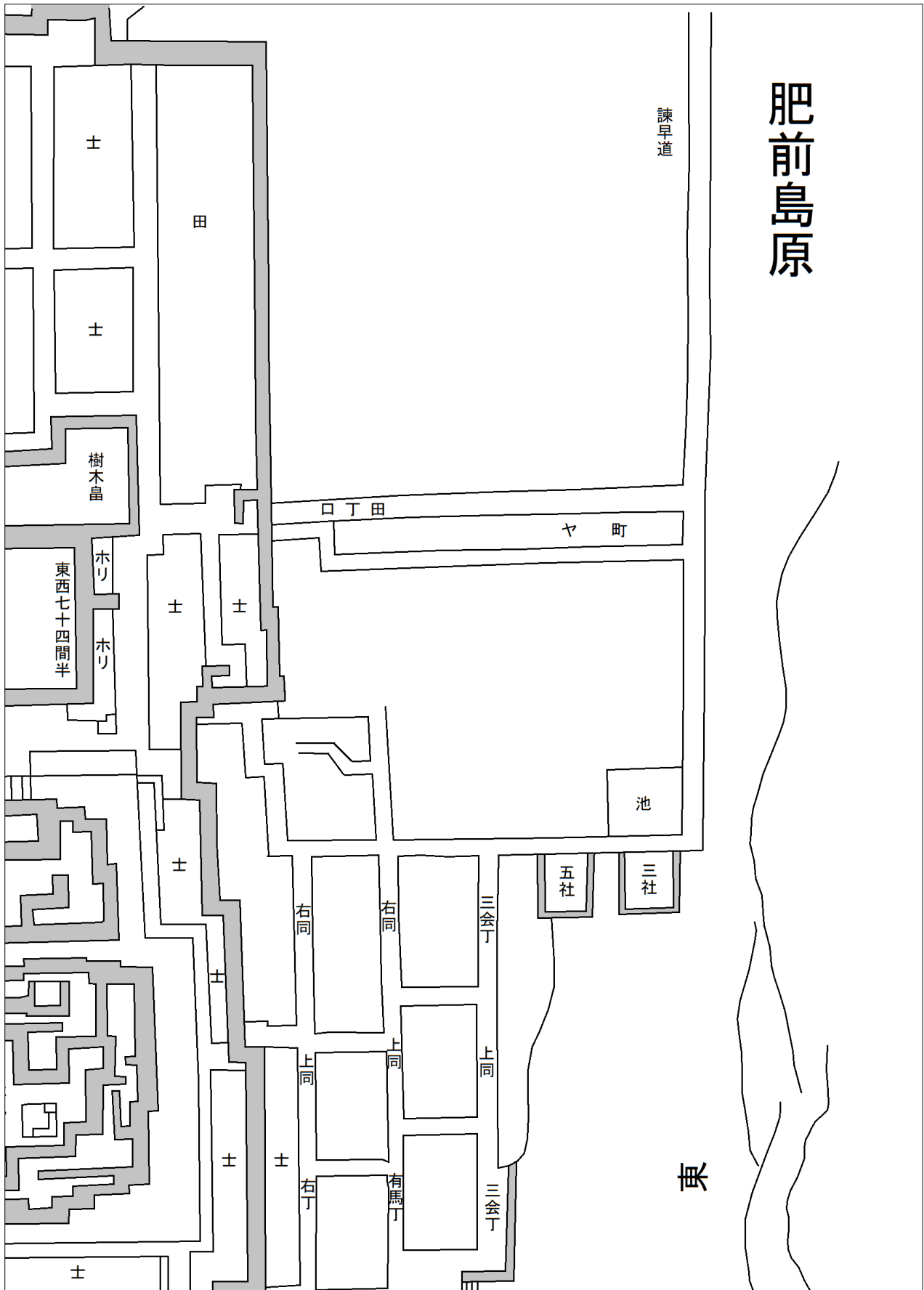


図3 「本朝城絵図」のうち「肥前島原」(北東部分)

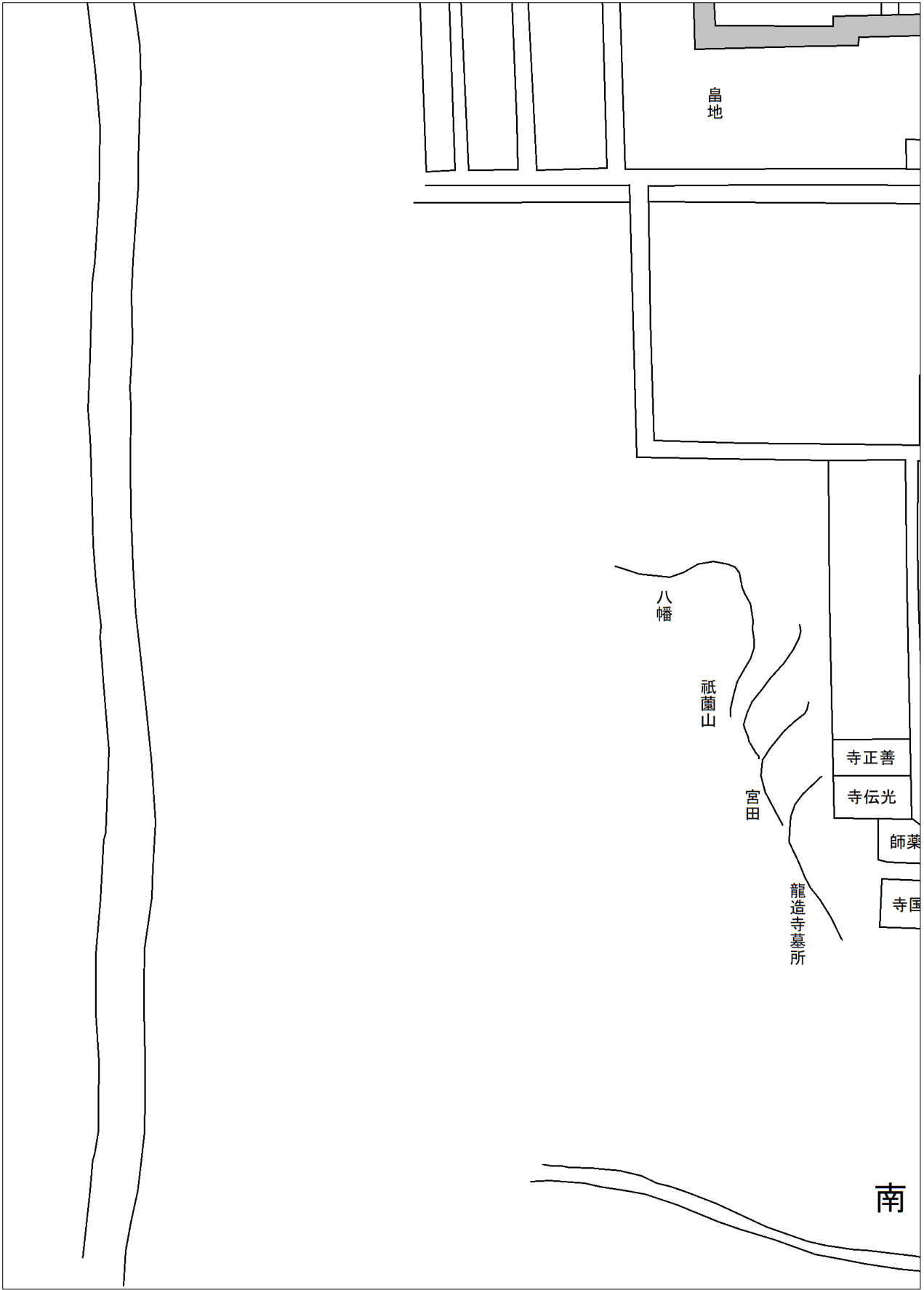


図4 「本朝城絵図」のうち「肥前島原」(南西部分)

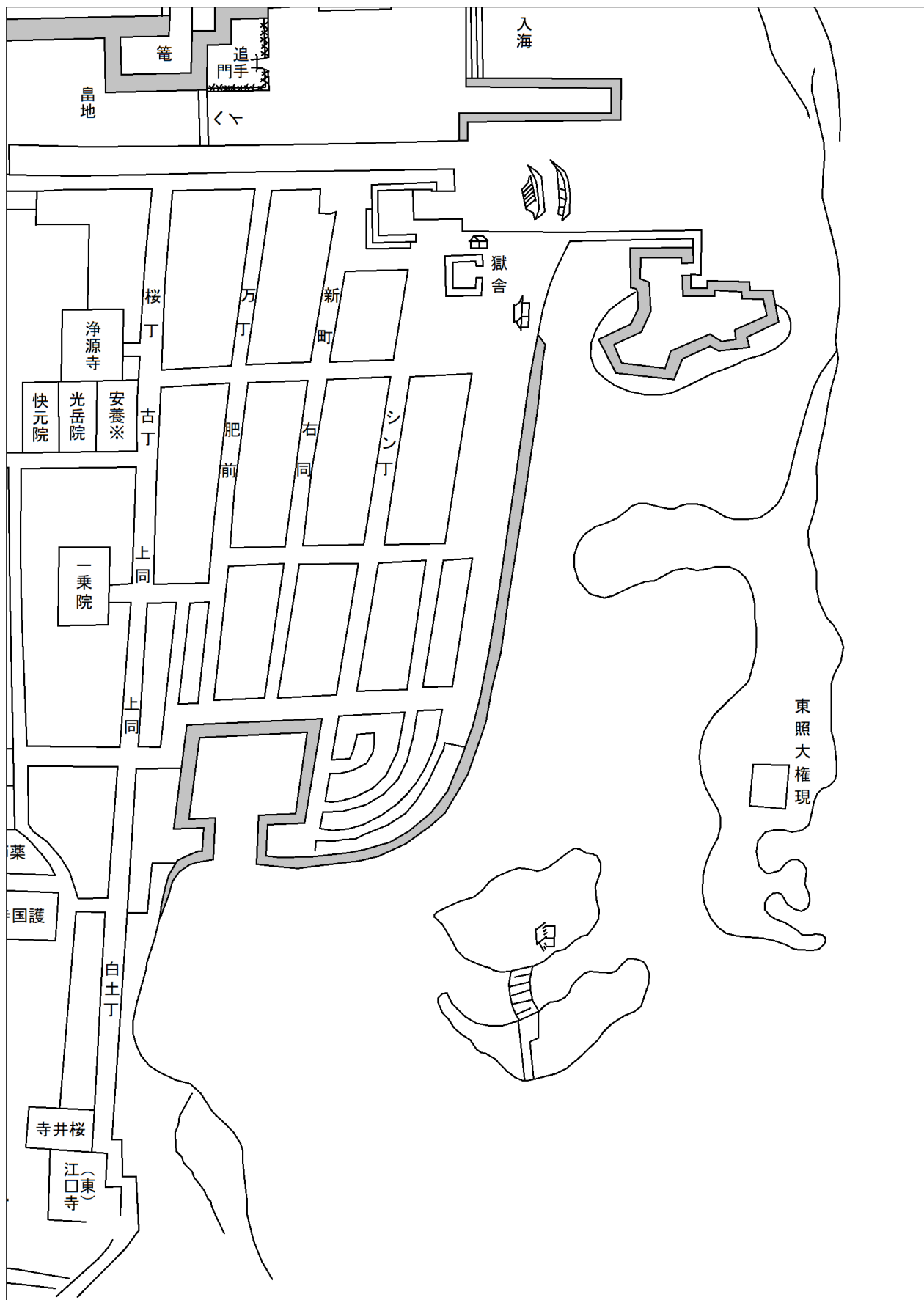


図5 「本朝城絵図」のうち「肥前島原」(南東部分)

### 3. 語註

---

#### 【 あ 】

- 不 明 門 …不明門（あかずのもん）とは「普段は閉ざしている門」をいう。「島原聞見閑録」はこの不明門について次のように記す。「不祥門とも云う。常に大門は閉めて、小門のみ開くあり。家中の葬送の時通る門と云う。番人一人。」（野村 2003, 243 頁）。
- 安 養 ※ …※は「院」と「寺」を重ねた墨蹟。安養寺。
- 樹 木 畠 …樹木屋敷とも（「肥前国島原城図」）。樹木は「うえき」と読んだらしい（『日本国語大辞典』、『古事類苑』植物部二）。恐らくは椿等の園芸植物を栽培・鑑賞するための一区画であろう。高力氏時代は三ノ丸の北に置かれていた。
- 追 手 門 …大手門。城の正面の門。
- 御 山 …現在、島原農業高校と島原工業高校の間の独立丘陵。島原市小山町（字「小山」）。  
⇒松倉豊後守。
- 池 …のちの御手洗池（「肥前島原之城図」）。この場所のもと、陸繋砂州と本土に挟まれた湾の一部であったが、土橋の構築によって池となり、さらに湧き水が流入していたため水は真水に転化したと考えられる（西田 2018b）。

#### 【 か 】

- 祇 園 山 …光伝寺（島原市寺町）本堂裏の丘陵。現在、入口付近に「祇園山」と記した石柱がある。島原市寺町（字「寺町」）。
- 五 社 …寛永 7(1630)年以前の創立。大神宮・八幡宮・天満宮・春日大明神および、不明の一社を祀る（西田 2018b）。

#### 【 さ 】

- シ ン 丁 …新町。城下町の草創期よりのちに町立てされた町。
- 三 社 …寛永期の創立。鷹島社・愛宕社・東照宮を祀ったものと考えられる（西田 2018b）。
- 清 雲 寺 …晴雲寺。「清」は比較的初期の文書・絵図に見られる用字。

## 【 た 】

田 丁 口 …田町口。田町に至る城の出入り口。図の中で「町ヤ（町屋）」と記される区画は「田町」という名の町。

丁 …「町」の代用、または省画。「ちょう」または「まち」。

早 …「町」の異体。「ちょう」または「まち」。

鉄 砲 町 …鉄砲足軽が居住した町。

東照大権現…徳川家康を祀った社。現在の霊丘神社。絵図作成当時の正確な立地は不明だが、字「権現山」（ほぼ、現在の霊丘公園に相当）にある高台の一つと考えられる（西田 2018b）。現在、島原市弁天町 2 丁目。

## 【 は 】

八 幡 …八幡山。善法寺（島原市寺町）本堂裏の丘陵。現在、島原市寺町（字「馬場」）。

肥 前 …肥前堀町。慶長 19（1614）年に有馬氏が日向へ転封となったのち、北目は大村藩が、南目は佐賀藩が預かることとなり、日野江城および原城は内田舎人・鍋島七左衛門・多久長門が、島原村浜城には綾部左京と中野甚右衛門が定番として入った。その後、浜城防禦のために堀を掘り、土手を築いたが、その際、堀を肥前堀と名付けている（国書刊行会 1970, 591 頁）。恐らくはこれに由来する町名なのであろう。

## 【 ま 】

丁 …「町」の代用、または省画。「ちょう」または「まち」

早 …「町」の異体。「ちょう」または「まち」。

町 ヤ …町屋。町方の支配下にある町。武士が屋敷を買得し、所有することもあった。田町（「田丁口」の項を参照）には、寛文頃までに陪臣が居住するようになったようである（島原市教育委員会 2016, 66 頁・136 頁、林 1954c, 518 頁）。

松倉豊後守…日野江藩・島原藩藩主松倉豊後守重政（1574?～1630）。島原城下の西に松倉重政の廟がおかれたことは多くの絵図から知られる。その立地を「御山」とする絵図もあるが、「本朝城絵図」では丸山とする。

丸 山 …現在の本光寺本堂の裏手にある独立丘陵。戦国期の丸尾城跡とされる。現在、島原市本光寺町（字「本光寺」）。

## 【ら】

龍造寺墓所…龍造寺山城守隆信（1529～1584）の墓所。護国寺（島原市寺町）本堂裏の独立丘陵に  
現在も残る。なお、この丘陵を「隆信山」という（「島原大變前後図」）。現在、島原市  
寺町（字「上ノ原」）。

籠 …籠。籠屋。牢屋。

## 4. 解説

---

### I. 城絵図集

今回取り上げた「本朝城絵図」は、近世中期から後期にかけて作成された、日本全国の城絵図集の一つである。城絵図集の類本は非常に多く、書名も区々で、卷子本、折本、竖帳、一枚物、畳物など、様々な書誌形態がある（図2 1～図2 6）。

すでに矢守一彦氏は、巻冊の編成や国および城の配列順、採録城図数などに着目、内容・構成に基本型・亜型・特異型があることを指摘、写本の系譜を明らかにしている（矢守 1974）。

### II. 城絵図集にみる島原城下絵図

#### (1) 城絵図集が載録する島原城下絵図

城絵図集が載録する島原城下絵図のうち、筆者がこれまで描画内容を確認したのは 18 点である。いずれも描画範囲・デフォルメを同じくしており（図1・図2 0参照）、共通の祖本を持つと考えられる。後掲の表1は、その概要を示したものである。

史料名 および同記号	島原城下絵図名 および同記号	所蔵機関	請求番号など	史料写真掲 載刊行物
主図合結記	㉑ (無題)	㉑ 名古屋市蓬左文庫		矢守1974
主図合結記	㉒ (無題)	㉒ 東京国立博物館	帝室本 QA-1224、 和1224/5-5	
主図合結記 卷之十	㉓ (無題)	㉓ 高知県立高知城歴史博物館	山内文庫 ヤ211-103	
主図合結記 卷之十	㉔ (無題)	㉔ お茶の水女子大学	お茶の水女子大学図書館 E50/67/10	
諸国居城図	㉕ (無題)	㉕ 尊経閣文庫		前田育徳会 2000
分国城図 下	㉖ 肥前国島原	㉖ 静岡県立中央図書館	葵文庫 Q526/1/2	
主図合結 五(止)	㉗ 肥前島原城	㉗ 東京国立博物館	QB-1220、 039/と1220/5-5	
主図合結之記 南海道/西海道 五	㉘ (無題)	㉘ 京都大学	維新特別資料文庫 尊/巻318/貴	
諸国城之図 八	㉙ 同州島原	㉙ 国立国会図書館	をニ/8/81	
肥前島原城図	㉚ 肥前島原城図	㉚ 岡山大学	池田家文庫 T3-310	
肥前国島原城郭絵図	㉛ 同州島原	㉛ 長崎歴史文化博物館	3 703-2	
扶桑城図記 二(止)	㉜ 肥前島原	㉜ 国立国会図書館	ほ/合2/67	
主図合結 十	㉝ (無題)	㉝ 高知県立高知城歴史博物館	山内文庫 ヤ211/190	
主図合結記 四	㉞ 同州島原	㉞ 東京大学	東京大学史料編纂所 4163/8/4-4	
主図合結記 卷之五	㉟ 同州島原	㉟ お茶の水女子大学	お茶の水女子大学図書館 E50/68/5	
主図分国記 卷第拾四	㊱ (無題)	㊱ 筑波大学	筑波大学附属図書館 ネ300/ /34	
諸国当城之図	㊲ (無題)	㊲ 広島市立中央図書館		原田ほか 1982
本朝城絵図	㊳ 肥前島原	㊳ 東京大学	東京大学史料編纂所 S貴23-1	

表 1 城図集一覧

※㉑㉒は城絵図集と関連があると考えられる単独の一枚物の史料

画像参照URL	参照図
<a href="https://webarchives.tnm.jp/dlib/detail/2788">https://webarchives.tnm.jp/dlib/detail/2788</a>	
<a href="https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100231243/viewer/479">https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100231243/viewer/479</a>	
<a href="https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100260777/viewer/305">https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100260777/viewer/305</a>	
<a href="https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100065259/viewer/134">https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100065259/viewer/134</a>	
<a href="https://webarchives.tnm.jp/dlib/detail/947">https://webarchives.tnm.jp/dlib/detail/947</a>	
<a href="https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00013866#?c=0&amp;m=0&amp;s=0&amp;cv=151&amp;r=0&amp;xywh=-2312%2C-1%2C7695%2C2048">https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/item/rb00013866#?c=0&amp;m=0&amp;s=0&amp;cv=151&amp;r=0&amp;xywh=-2312%2C-1%2C7695%2C2048</a>	図20
<a href="https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2573660">https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2573660</a>	
<a href="http://repo.lib.okayama-u.ac.jp/zoomify/T3_310_T640087005.html">http://repo.lib.okayama-u.ac.jp/zoomify/T3_310_T640087005.html</a>	
<a href="http://www.nmhc.jp/museumInet/prh/colArtAndHisSubGet.do?number=91753&amp;command=image">http://www.nmhc.jp/museumInet/prh/colArtAndHisSubGet.do?number=91753&amp;command=image</a>	
<a href="https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2550886?tocOpened=1">https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2550886?tocOpened=1</a>	
<a href="http://base1.nijl.ac.jp/iview/Frame.jsp?DB_ID=G0003917KTM&amp;C_CODE=0099-036904&amp;IMG_SIZE=&amp;PROC_TYPE=null&amp;SHOMEI=%E3%80%90%E4%B8%BB%E5%9B%B3%E5%90%88%E7%B5%90%E8%A8%98%E3%80%91&amp;REQUEST_MARK=null&amp;OWNER=null&amp;BID=null&amp;IMG_NO=307">http://base1.nijl.ac.jp/iview/Frame.jsp?DB_ID=G0003917KTM&amp;C_CODE=0099-036904&amp;IMG_SIZE=&amp;PROC_TYPE=null&amp;SHOMEI=%E3%80%90%E4%B8%BB%E5%9B%B3%E5%90%88%E7%B5%90%E8%A8%98%E3%80%91&amp;REQUEST_MARK=null&amp;OWNER=null&amp;BID=null&amp;IMG_NO=307</a>	
<a href="https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/view/idata/400/4163/8/4/00000021?m=limit&amp;n=20">https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/view/idata/400/4163/8/4/00000021?m=limit&amp;n=20</a>	
<a href="https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100260775/viewer/228">https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100260775/viewer/228</a>	
<a href="https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100304931/viewer/460">https://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/100304931/viewer/460</a>	
<a href="https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/view/idata/000/_000ki_23/1/00000075?m=all&amp;n=20">https://clioimg.hi.u-tokyo.ac.jp/viewer/view/idata/000/_000ki_23/1/00000075?m=all&amp;n=20</a>	図1-5

## (2) 特徴的差異と情動的過誤 (図 19 参照)

①～⑲ (表 1) には特徴的差異が見られ、そのうちいくつかは明らかに情動的過誤 (中尾ほか 2012, 181 頁) である。下表はその差異を一覧にしたものである。

特徴的差異 (◆=情動的過誤)		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲
(a)	城東に陸繋砂州を描く (図 6)		○	○	○	○	○	○												
(b)	城東に山を描く (図 8)	◆							○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(c)	城東の陸繋砂州南端に東照大権現を図示しない (図 20)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(d)	城東の陸繋砂州南端に東照大権現を図示する (図 1)	◆																		○
(e)	大手川河口南岸に曲線からなる半島を描く (図 9)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(f)	大手川河口南岸に出城を描く (図 10)	◆																		○
(g)	城西に長大な川を描かない (図 20)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(h)	城西に長大な川を描く (図 1)	◆																		○
(i)	三ノ丸と北ノ門の間に 1 区画分の明地がある (図 11)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(j)	三ノ丸と北ノ門の間に 1 区画分の明地がない (図 12)																			○
(k)	城南の川が緩やかにカーブする (図 13)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(l)	城南の川が蛇行する (図 14)															○	○	○	○	○
(m)	城南の川が比較的短く描写される (図 15)																			○

表 2 特徴的差異と情動的過誤 (①～⑲の記号については前項を参照)

(a) は、城東に陸繋砂州を描くものである (図 6)。一方 (b) は、同所に山を描く (図 8)。近世から現代にいたるまで城東に山は存在しないから、(b) は明らかに情動的過誤である。従って、この情動的過誤 (結合的過誤) を有する祖本 (X) の存在が想定できる。

城東の描画については、陸繋砂州の海岸線が山の稜線へと徐々に変化していく (R)、あるいはその変化が丁の境 (すなわち豎帳の綴じ代のあたり) で突如として起こる (DL) といった過渡的な描写も見られ、(a) から (b) への変化が漸次的であったことが想定できる。

また、城東に山を描く G～R の中でも、Q・R のみに見られる情動的過誤 (d) (f) (h) があり、G～P 共通の祖本 (Y) や、Q・R に共通の祖本 (Z) の存在が想定される。

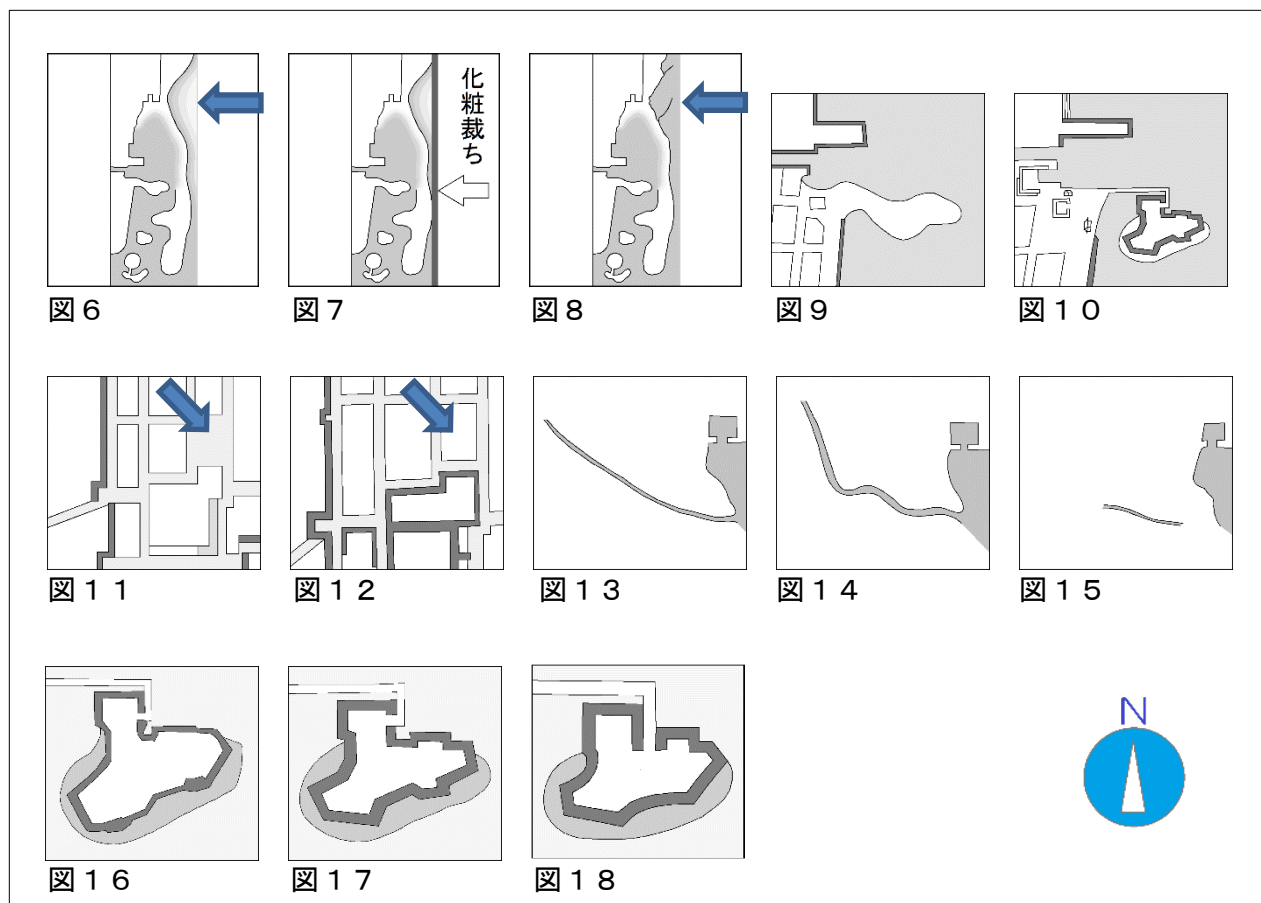
## (3) 混態 (図 19 参照)

Q・R (表 1) の祖本 (Z) については、他の系統図との混態 (中尾ほか 2012, 36 頁) であった可能性がある (混態のほか、混成、混合などの語も用いられる)。

まず (f) については、Q と R に描かれる出城が (それぞれ図 18・図 17)、S 「肥前国高来郡島原城図」 (西田 2018b) に描かれる出城 (図 16) と形状が酷似しており、Z と S の祖本 (U) が想定できる。これを過誤としたのは、出城の位置を過つからである。S では現在の島原市弁天町 1 丁目付近にこの出城を描くのに対し、Q・R では現在の島原市高島 1 丁目付近に描く。S のデフォルメが大きいことから、祖本 Z の作成者が、〈X の系統図〉に〈U の系統図〉の情報を加える際、出城の位置を誤認、本来は現在の島原市弁天町 1 丁目付近に描き加えるべきを、現在の島原市高島 1 丁目付近に描き加えたのではないか。

次に(h)については、㊦「肥前国島原之城」(西田 2017b)に描かれる長大な川と極めて似通っており、㊥・㊦共通の祖本(㊵)が想定できる。

さらに、(d)についても情報的過誤と考えてよいだろう。「東照大権現」は寛文・延宝頃、「三社」のうち一社が移転したものとされ(西田 2018b)、「三社」と「東照大権現」が両立しえないからである。恐らくは、寛文・延宝以降に作成された絵図(の系統図)との混態であろう。



なお、㊱・㊲間にも異同がある。出城については、㊲(図17)の方が㊱(図18)よりも精緻であって㊳(図16)に近い。虎口の向きについても㊳(図16)と㊲(図17)が東向きであるのに対し、㊱(図18)は北向きである。

他方、城門を見ると、㊲では城門の多くを省略している一方で、㊱は城門をより正確に描く。

#### (4) 想定される写本の系譜

これまで述べた内容を写本系統図としてまとめたのが図19である。勿論、本稿で考察したのは全国に数多く伝存する城絵図集のごく一部であるから、暫定的なものであることを断っておきたい。

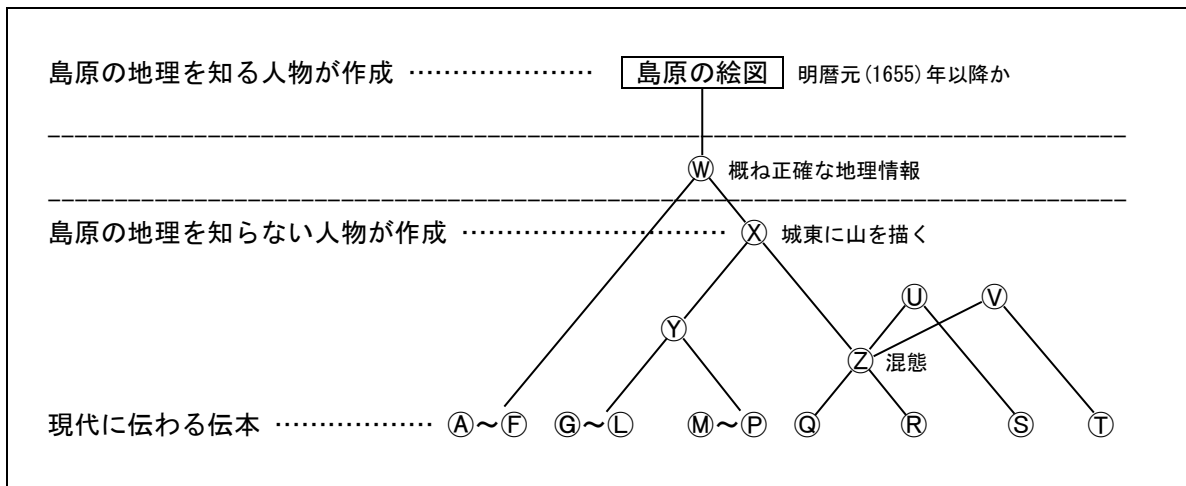


図19 想定される写本の系譜（表1参照）

### Ⅲ. 「本朝城絵図」のうち「肥前島原」の成立過程

これまでの考察から筆者が推定する、「肥前島原」(R)の成立に至るまでの過程は以下の通りである。

- 1) Aのように陸繋砂州の両岸を緑で着色する、あるいはEのように陸繋砂州の西岸を青（遠浅の潟地を描写したか）、東岸を緑（有明海の深い海を描写したか）で着色する祖本Wが成立（図6）。
- 2) 何らかの要因で陸繋砂州の一部が山に見えるようになる。その要因として以下のことが考えられる。
  - a. 陸繋砂州の岸（の一部）が緑で着色されていた。
  - b. 絵図を見開きとなるよう、二つの丁に分け描いた。（図23）
  - c. 化粧裁ちによって絵図の東側が欠損、陸繋砂州東岸が分離した。（図7）
 特に、縦帳の丁の境（綴じ代のあたり）で、陸繋砂州の海岸線が山の稜線へと突如変化するLは要因bを強く示唆するものである。またcについては、史料の損傷によって誤読が生じ、その誤読の上に（主観的）恣意が加えられて、思いもよらぬ意味をこじつけられることがある」ことを池田（1991、26、27、45、46、96、97頁）がすでに明らかにしている。
- 3) 2)の結果、分離した陸繋砂州東岸のうち北半分を山と誤認した人物がその箇所を山として描いて祖本Xが成立。
- 4) 他の系統図（U・Vが想定できる）との混態によって祖本Zが成立。
- 5) 祖本Z（あるいはその系統図）を写しとることでRが成立。

#### IV. 「本朝城絵図」のうち「肥前島原」に図示される清雲寺と禅林寺

「本朝城絵図」のうち「肥前島原」(㊟)は、城下の西北に「清雲寺」・「禅林寺」を図示する。系統を同じくする㊤もまた、「清雲寺」・「禅林寺」を図示する。このほか寺名は記さないものの、多くの伝本が、やはり同所に2区画の「寺」を図示する。

この二カ寺は清雲寺(近世中後期の表記は「晴雲寺」)および禅林院(寺号・山号不明)と考えられる。禅林院は島原藩主高力忠房(禅林院殿傑岑道英大居士)が明暦元(1655)年に没したのち、高力家菩提寺として創建されたとされる。また禅林院故地に本光寺の寺基が定められたのが寛文9(1669)年頃とされる(西田 2019c)。

以上のことから、㊟の祖本の一つは明暦元年～寛文9年頃の景観を描いていた可能性を指摘できる。

#### V. 「本朝城絵図」の作成・伝世

年紀は記されないが、「東京帝国大学附属図書館/118882/明治廿九年六月十一日」のスタンプが押印されることから、明治39(1906)年に東京帝国大学附属図書館が受け入れたことが推定できる。

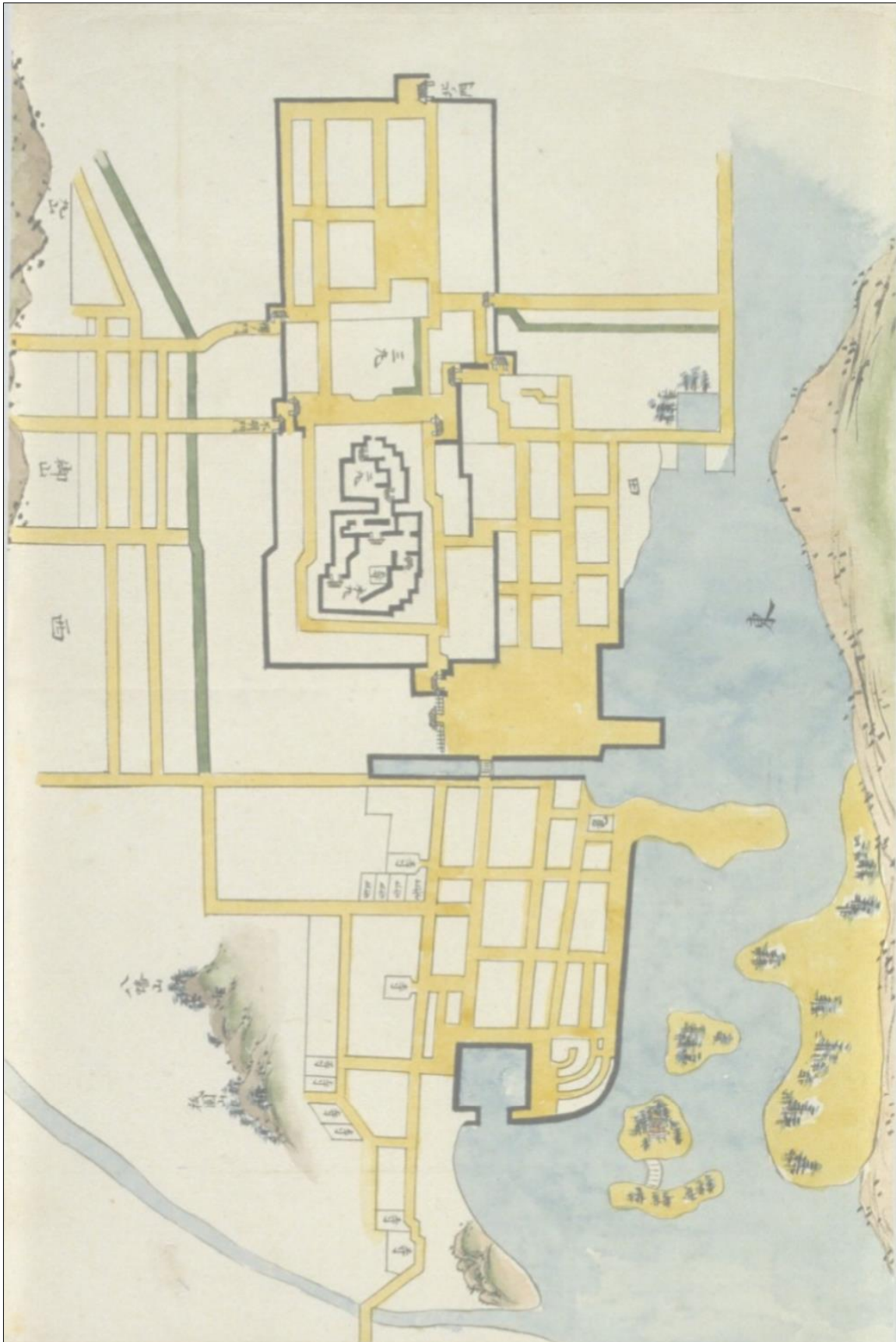


图 20 「主図合結之記 南海道/西海道 五」(京都大学附属図書館蔵) 部分

FREE LICENSE with Attribution: <https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/reuse>

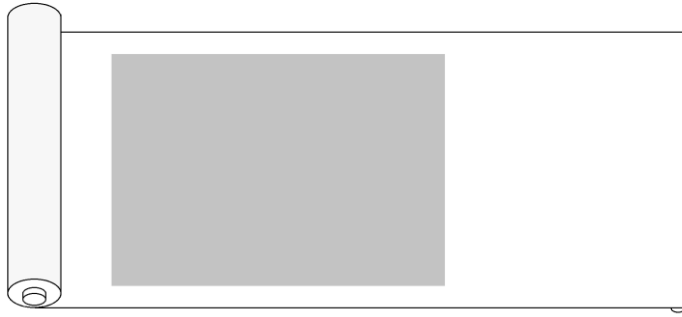


图 2 1 卷子本 ⑧

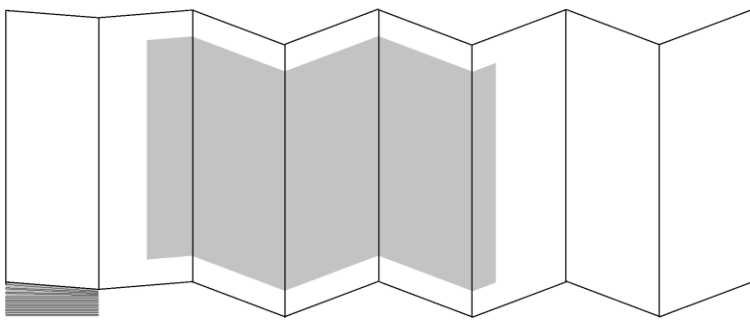


图 2 2 折本 ⑩⑪

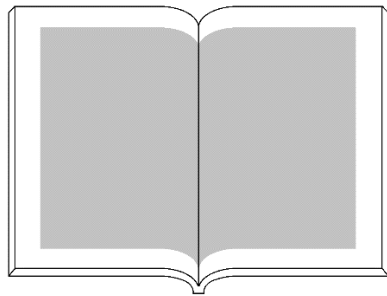


图 2 3 竖帳 (見開き) ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱

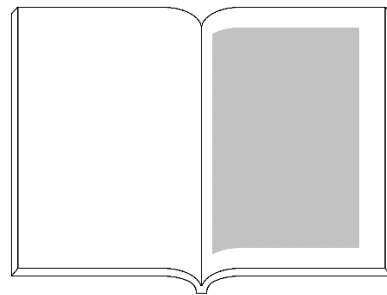


图 2 4 竖帳 (片面) ⑲



图 2 5 一枚物 ⑲⑳

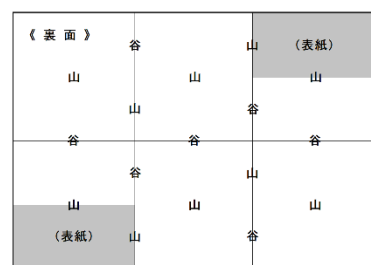


图 2 6 畳物 ㉑

## 5. 参考文献

---

### ■参考文献

- 池田亀鑑『古典学入門』（岩波書店、1991年）。※底本は『古典の読み方』（至文堂、1952年）。
- 黒嶋敏「巻頭図版 前江戸図」『東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信』87号（東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター、2019年）。
- 国書刊行会編『続々郡書類従』第十二（続群書類従完成会、1970年）。
- 島原市教育委員会編『島原市文化財調査報告書』第16集 森岳城跡石垣調査報告書（島原市教育委員会、2016年）。
- 中尾央ほか編『文化系統学への招待』（勁草書房、2012年）。
- 西田博『肥前浜城と島原城下町の復元的考察』私家版、2017年a、九州大学学術情報レポジトリにて公開）。
- 西田博『島原城下絵図翻刻稿①「肥前国島原之城」』（私家版、2017年b）。
- 西田博『島原城下絵図翻刻稿②「筑前筑後肥前肥後探索書」』（私家版、2018年a）。
- 西田博『島原城下絵図翻刻稿③「肥前国高来郡島原城図」—付 五社宮・三社宮について—』（私家版、2018年b）。
- ※画像参照 URL : <https://www.sagalibdb.jp/iiifviewer/?uid=02000612>
- 西田博『島原城下絵図翻刻稿④「島原城下図」』（私家版、2019年a）。
- 西田博『島原城下絵図翻刻稿⑤「肥前国嶋原城図」—付 寛文8年島原城請取関係史料—』（私家版、2019年b）。
- 西田博『島原城下絵図翻刻稿⑥「肥前島原之城図」』（私家版、2019年c）。
- 西田博『島原城下絵図翻刻稿⑦「肥前島原之城図」』（私家版、2020年）。
- 原田伴彦ほか『浅野文庫蔵諸国当城之図』（新人物往来社、1982年）。
- 野村義文『島原半島町村変遷史』（出島文庫、2003年）。
- 林銚吉編『島原半島史』上巻（長崎県南高来郡市教育会、1954年a）。
- 林銚吉編『島原半島史』中巻（長崎県南高来郡市教育会、1954年b）。
- 林銚吉編『島原半島史』下巻（長崎県南高来郡市教育会、1954年c）。
- 前田育徳会編『尊経閣文庫蔵 諸国居城図』（新人物往来社、2000年）。
- 松江歴史館蔵『松江歴史館蔵 極秘諸国城図 図版集』（松江歴史館、2018）。
- 矢守一彦『城郭図譜 主図合結記』（名著出版、1974年）。

## 6. あとがき

2017年6月、『肥前浜城と島原城下町の復元的考察』という小文を発表したが（九州大学学術情報レポジトリに登録）、その稿を進めるなかで、島原城下絵図について若干の知見を得ることができた。その知見、あるいはその後に得られた知見をまとめたのがこの「島原城下絵図翻刻稿」シリーズである。

今回、島原城下絵図の写本系統について考察するなかで、描画上の過誤が縦帳の化粧裁ちや書誌形態の改装によっても生じうる可能性を指摘したが、このような偶発的要因によって生じる過誤の研究が体系的に進めば、歴史史料間の矛盾が一部、解明できるようになるのではないかと思う。

タイトルに「稿」とあるように、これはあくまで未完稿である。特に、彩色・顔料・料紙などについては考察を留保している。無知による錯誤・誤謬も多々あるかと思う。先学諸賢のご批判・ご叱正を得て、「稿」の一文字を削除できれば、と切に願っている。

（にしだ・ひろし 〒854-0074 長崎県諫早市山川町18-4）

### 島原城下絵図翻刻稿シリーズ

- ①「肥前国島原之城」（長崎歴史文化博物館蔵）
- ②「筑前筑後肥前肥後探索書」（長崎歴史文化博物館蔵・東京大学史料編纂所蔵）  
※当論考の一部を、「筑前筑後肥前肥後探索書・讃岐伊予土佐阿波探索書について—書誌学的考察と描画法の分析から—」（『福岡地方史研究』57号、2019年）としてまとめた。
- ③「肥前国高来郡島原城図」—付 五社宮・三社宮について—（佐賀県立図書館蔵）
- ④「島原城下図」（本光寺常盤歴史資料館蔵）
- ⑤「肥前国嶋原城図」—付 寛文8年島原城請取関係史料—（東京大学史料編纂所蔵）
- ⑥「肥前島原之城図」（長崎歴史文化博物館蔵）
- ⑦「島原森岳城絵図」（東京大学史料編纂所蔵）
- ⑧「本朝城絵図」（東京大学史料編纂所蔵）

書名読み：しまばらじょうかえず・ほんこく・こう・はち・ほんちょうしろえず